様式1

大学等名	佛教大学
プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件　　学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

全学共通科目「コンピュータ・リテラシー」および全学教養科目「情報・メディアと社会」の2科目4単位を修得すること。

必要最低科目数・単位数　2 科目　4 単位　履修必須の有無　令和9年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報・メディアと社会	2	○	○	○					

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報・メディアと社会	2	○	○	○					

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報・メディアと社会	2	○	○	○					

⑦「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
コンピュータ・リテラシー	2	○	○	○					
情報・メディアと社会	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
コンピュータ・リテラシー	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
（1）現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「情報・メディアと社会」（2回目、3回目） ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「情報・メディアと社会」（2回目）
	1-6	・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「情報・メディアと社会」（11回目） ・AI最新技術の活用例（深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など）「情報・メディアと社会」（11回目）
（2）「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「情報・メディアと社会」（4回目） ・構造化データ、非構造化データ（文章、画像/動画、音声/音楽など）「情報・メディアと社会」（4回目）
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「情報・メディアと社会」（5回目、6回目） ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「情報・メディアと社会」（5回目） ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「情報・メディアと社会」（6回目）
（3）様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など「情報・メディアと社会」（7回目） ・非構造化データ処理：言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「情報・メディアと社会」（8回目） ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「情報・メディアと社会」（9回目）
	1-5	・データサイエンスのサイクル（課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、 探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案）「情報・メディアと社会」（10回目）

（4）活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・ELSI（Ethical, Legal and Social Issues）「情報・メディアと社会」（１２回目） ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「情報・メディアと社会」（１２回目） ・データ倫理：データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「情報・メディアと社会」（１３回目） ・データ倫理：データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「コンピュータ・リテラシー」（３回目）
	3-2	・情報セキュリティ：機密性、完全性、可用性「情報・メディアと社会」（１４回目） ・情報セキュリティ：機密性、完全性、可用性「コンピュータ・リテラシー」（３回目） ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「コンピュータ・リテラシー」（３回目）
（5）実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・相関と因果（相関係数、擬似相関、交絡）「コンピュータ・リテラシー」（１２回目） ・データの分布(ヒストグラム)と代表値（平均値、中央値、最頻値）「コンピュータ・リテラシー」（１２回目）
	2-2	・データ表現（棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ）「コンピュータ・リテラシー」（１０回目、１２回目）
	2-3	・データの集計（和、平均）「コンピュータ・リテラシー」（１１回目） ・データの並び替え、ランキング「コンピュータ・リテラシー」（１１回目）

⑪ プログラムの学修成果（学生等が身に付けられる能力等）

・さまざまな情報ツールを適切に利用できる
・インターネットを適切に利用できる
・基本的な情報モラルおよびセキュリティ対策を実践できる
・Society5.0で実現される社会について説明できる
・数理・データサイエンス・AIに関する基本用語について理解し、適切に利用できる
・データ・AI利活用の実例を理解し、利点や課題を説明できる
・データ・AI利活用に関連した法令や制度を理解し、利点や課題を説明できる

様式2

佛教大学

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度　令和6　年度（和暦）

②大学等全体の男女別学生数　男性 3,203 人　女性 2,990 人　（ 合計 6,193 人 ）

（令和6年5月1日時点）

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
仏教学部	239	60	240	67	0											67	28%
文学部	1,013	240	960	272	0											272	28%
歴史学部	813	180	720	213	0											213	30%
教育学部	1,176	290	1,160	335	0											335	29%
社会学部	1,370	320	1,280	361	0											361	28%
社会福祉学部	972	220	880	241	0											241	27%
保健医療技術学部	610	145	580	156	0											156	27%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合　計	6,193	1,455	5,820	1,645	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,645	28%

様式3

大学等名 佛教大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 （常勤） 233 人 （非常勤） 457 人

② プログラムの授業を教えている教員数 12 人

③ プログラムの運営責任者

（責任者名） 斉藤　利彦 （役職名） 教育推進機構長

④ プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）

教育推進機構会議 ／ 全学共通科目・教養科目編成運営委員会

（責任者名） 斉藤　利彦 （役職名） 教育推進機構長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

教育推進機構会議規程 ／ 全学共通科目・教養科目編成運営委員会規程

⑥ 体制の目的

教育課程の編成・運営および教育開発・改善を目的として「教育推進機構会議」が設置されており、その中で、全学部生が履修可能な全学共通科目系列ならびに全学教養科目系列に属する科目の編成と運営を目的に設置された組織が「全学共通科目・教養科目編成運営委員会」である。
対象科目である「コンピュータ・リテラシー」と「情報・メディアと社会」は、いずれも全学共通科目系列と全学教養科目系列に属しており、「全学共通科目・教養科目編成運営委員会」において、当該科目が適切に運営されているか、「自己点検・評価委員会」や「質保証推進委員会」からの提言を参考にしながら確認を行い、適宜、担当者会議を開催する等して改善・進化を図っている。
なお、令和8年度にカリキュラムの改定を予定しており、教育推進機構の下に「情報教育推進センター」を設置し、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの更なる推進を目指す。

⑦ 具体的な構成員

委員長	斉藤　利彦（教育推進機構長／歴史学部 教授）
副委員長	山口　孝治（生涯学習機構長／教育学部 教授）
委員	加藤　弘孝（仏教学部 准教授）、山極　伸之（仏教学部 教授）、稲永　知世（文学部 准教授）、瀬邊　啓子（文学部 准教授）、松本　真治（文学部 教授）、李　昇燁（歴史学部 教授）、山崎　覚士（歴史学部 教授）、月岡　卓也（教育学部 教授）、大貫　挙学（社会学部 教授）、谷本　和也（社会学部 准教授）、長光　太志（社会学部 講師）、原田　徹（社会学部 准教授）、井上　洋平（社会福祉学部 准教授）、髙木　健志（社会福祉学部 教授）、谷田　惣亮（保健医療技術学部 准教授）、濱吉　美穂（保健医療技術学部 教授）
事務局	吉川　奈見（教育推進部 部長）、八木　利樹（生涯学習部 部長）、寺嶌　淳（教育推進部 教育推進課 課長）、北村　久美（生涯学習部 通信教務課 課長）、飯田　眞大（生涯学習部 通信学習課 課長）、水谷　彰吾（教育推進部 学務課 課長）

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	28%	令和7年度予定	56%	令和8年度予定	84%
令和9年度予定	100%	令和10年度予定	100%	収容定員（名）	5,820

具体的な計画

全学共通科目の「コンピュータ・リテラシー」は、7学部中6学部が必修科目と位置づけており、選択科目である保健医療技術学部においても殆どの学生が受講する等、大多数の学生が初年次に受講するため、令和9年度にはすべての学生が受講する予定である。
一方で、全学教養科目の「情報・メディアと社会」は選択科目であるため、当該科目の履修を促すことが全体の履修率を高めるポイントとなる。
令和6年度は履修登録前のオリエンテーション期間中に、ICTに関する講座を開催する等して当該科目の履修を促したが、履修率は期待値を上回らなかったため、令和7年度についてはWEBページでの周知に加え、各学科で開催する履修ガイダンスで受講を促す予定である。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

「コンピュータ・リテラシー」は、全学共通科目系列において開講しており、全ての学部生が受講可能な科目である。
また、当該科目は時代に則した情報リテラシーを学ぶ科目であり、本学の人材養成の目的においても重要な科目に位置づけられているため、少人数の対面授業として編成し、紫野キャンパスと二条キャンパスのそれぞれで開講している。
「情報・メディアと社会」は、社会人として備えるべき幅広い教養を体系的に学ぶ全学教養科目系列において開講しており、全ての学部生が受講可能である。また、学生の時間的な制約を受けない遠隔授業で開講しているため、多くの学生が受講可能である。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

「コンピュータ・リテラシー」は、上記のとおり情報リテラシーを学ぶ科目であり、初年次から備えておくべき内容であるため、新入生オリエンテーションでの周知を徹底する。
具体的には、各学科の履修ガイダンスにおける専任教員からの口頭説明に加え、動画、掲示物、WEBページ等様々な媒体を通じて受講を促す。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

「コンピュータ・リテラシー」は、7学部中6学部が必修科目としているため、多くの学生が受講する科目であるが、それ故に授業内容についていけない、あるいは理解が追い付かない学生が多いため、それらの学生を如何にサポートし、「情報・メディアと社会」の受講に繋げるかが重要なポイントである。
令和6年度においては、春学期のオリエンテーションから授業開始１週間までの間、学生サポートスタッフを配置し、受講にあたっての前提知識をレクチャーできる体制を整えている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

LMSを活用して直接担当教員に質問や相談ができる環境を整えているが、今後は、⑪で示した学生サポートスタッフをSAとして採用し、授業時間外の学習指導や個別質問に対応できるような体制を整備する予定である。

様式4

大学等名 佛教大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）

質保証推進委員会 ／ 自己点検評価委員会 ／ 教育推進機構会議

（責任者名）伊藤 真宏　（役職名）学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラムを構成している全学共通科目「コンピュータ・リテラシー」は全学部1年生の必修科目となっており，1年生の春学期に45クラス開講し、1,576名が履修登録している。 また、全学教養科目「情報・メディアと社会」は選択科目となっており、全学部の学生が履修可能である。なお、2024年度は69名が履修登録している。
学修成果	全学共通科目「コンピュータ・リテラシー」では、45クラス統一でシラバスで実施しており、到達目標を ①本学の情報環境を把握し、情報機器が利用できるようになる。 ②PCを用いて文献等の検索、文書作成、プレゼンテーション資料の作成、表計算、図表作成ができ、それらのソフトを組み合わせて活用することにより、大学授業での課題作成や論文作成に応用できるようになる。 ③ PC利用における基本的な情報モラルおよびセキュリティ対策を実践できるようになる。 ④ Society5.0で実現される社会について説明できるようになる。 以上の4項目としている。 この到達目標をもとに、成績評価の基準を授業内課題を90%、授業内発表を10%としている。 1576名の成績評価の内訳は、S評価（100～90点）282名（17.9%）、A評価（89～80点）が508名（32.2%）、B評価（79～70点）483名（30.6%）、C評価196名（12.4%）となり、本学では成績が60点以上で合格とし単位認定しているが、1469名（93.2%）の履修者が合格をしている。ただ、D評価（59～0点）90名（5.7%）N評価（評価対象外）17名（1.1%）、合計107名（6.8%）の履修者が不合格となっており、必修科目であるため、不合格者は次学期以降に再履修することとなる。 また、「情報・メディアと社会」の到達目標は ①数理・データサイエンス・AIに関する基本用語について理解し、適切に利用できる。 ②データ・AI利活用の実例を理解し、利点や課題を説明できる。 ③データ・AI利活用に関連した法令や制度を理解し、利点や課題を説明できる。 の3項目とし、成績評価の基準は、授業内容の理解度を確かめために学期末に定期試験（70%）、テキストの内容に関する小テストを授業内実施（30%）にて評価している。 履修者69名の成績評価の内訳は、S評価（100～90点）3名（4.3%）、A評価（89～80点）が3名（4.3%）、B評価（79～70点）12名（17.4%）、C評価16名（23.2%）となり、合計34名（49.3%）が合格をしている。しかしながら、D評価（59～0点）16名（23.2%）N評価（評価対象外）13名（18.8%）、X評価（学期末試験欠席）6名（8.7%）、合計35名（50.7%）と半数が不合格となっている。履修登録前の予想よりも授業が高度な内容であり、履修をあきらめたり離脱するもの者が多いことが推測され、今後、合格者を増やすためには改善が必要である。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	「コンピュータ・リテラシー」に対するアンケートでは，「シラバスに記載されている到達目標が達成できた」という質問に対して，有効回答数947名中「大いにそう思う」が328名（34.64%）、「そう思う」が481名（50.79%）とポジティブに回答した学生は合計809名、85.43%となり、おおむね良好であると考える。 また、「情報・メディアと社会」に対するアンケートでは，「シラバスに記載されている到達目標が達成できた」という質問に対して，有効回答数9名中「大いにそう思う」が2名（22.2%）、「そう思う」が4名（44.4%）と,ポジティブに回答した学生は合計6名、66.6%となり、「コンピュータ・リテラシー」よりはポジティブな回答の率は下回るものの、有効回答数が受講者が66名のうち9名と少ないため、判断が難しい。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業評価アンケートの質問項目に、後輩等他の学生への推奨度を問う項目はないが、「教員の話し方や説明の仕方、資料等はわかりやすかった」「教員は、意見・質問をする機会を設けるなど、受講生が疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫をしていた」という科目担当者の授業運営方法を問う質問項目がある。 「コンピュータ・リテラシー」では、「教員の話し方や説明の仕方、資料等はわかりやすかった」という質問に対しては、有効回答数947名中「大いにそう思う」が399名（42.13%）、「そう思う」が355名（37.49%）となり、両回答の合計が754名、79.63%で、約80%の履修者がわかりやすい授業であったと回答している。また、「教員は、意見・質問をする機会を設けるなど、受講生が疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫をしていた」という質問に対しては、、有効回答数947名中「大いにそう思う」が364名（38.44%）、「そう思う」が407名（42.98%）となり、両回答の合計が771名、81.42%であった。このことから、科目担当者は履修者に対して、わかりやすく、疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫をしていることが伺え、他の学生へ推奨することのできる授業であると言えるだろう。 また、「情報・メディアと社会」に対するアンケートでは，「教員の話し方や説明の仕方、資料等はわかりやすかった」という質問に対しては、有効回答数名中「大いにそう思う」が399名（42.13%）、「そう思う」が355名（37.49%）となり、両回答の合計が754名、79.63%で、約80%の履修者がわかりやすい授業であったと回答している。加えて、「教員は、意見・質問をする機会を設けるなど、受講生が疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫をしていた」という質問に対しては、有効回答数947名中「大いにそう思う」が364名（38.44%）、「そう思う」が407名（42.98%）となり、両回答の合計が771名、81.42%であった。このことから、科目担当者は履修者に対して、わかりやすく、疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫をしていることが伺え、他の学生へ推奨することのできる授業であると言えるだろう。 なお、授業アンケートの結果は、学内のWebポータルサイトにて提示し、学生は結果を閲覧することが可能である。これは、授業に対して既修者からのレビューとなり、これから履修する学生にとって単位修得に向けた授業への取り組みの参考となっている。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	プログラムの履修・修得状況にて記述のとおり、本プログラムを構成している全学共通科目「コンピュータ・リテラシー」は全学部1年生の必修科目となっており， 1年生の春学期に45クラス開講し、1,576名が履修登録、全学教養科目「情報・メディアと社会」は全学部3年生から履修可能な選択科目となっており、2024年度は69名が履修登録している。 また、2026年度よりカリキュラムの改定を検討しており、両科目ともに全学共通教養科目の「データーサイエンス科目群」への配置を検討している。 なお、本プログラムを修了した学生へ修了証書などの授与を検討しており、全学的に履修率を向上させようと検討中である。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	2025（令和7）年度は本プログラムを修了し卒業した学生はいない。 2027（令和9）年度以降の卒業生に対して、進路就職課が把握している進路・就職先の情報を利用し、進路や採用後の活躍について調査を行う予定。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本プログラムを修了した学生は2027（令和9年）年度に卒業する。2027（令和9年）年度以降に、本学で行っている卒業生の評価に関する企業アンケートに、本プログラムに関する項目を追加することになっているので、当該アンケートの回答を教育プログラムの改善に活かしていく。 また、2024（令和6年）の本教育プログラム履修学生の状況を分析した上で、学内企業説明会に参加の企業からもニーズなどの意見収集をすることで、より充実したプログラムを目指していく。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度にて記述した内容に加え，本学の授業アンケートの質問項目には、「この授業受け,さらに深く勉強したくなった」、「意義のあるものであった」という2項目がある。「コンピュータ・リテラシー」では、「この授業受け,さらに深く勉強したくなった」という質問に対しては、有効回答数947名中「大いにそう思う」が303名（32.00%）、「そう思う」が392名（41.39%）となり、両回答の合計が695名、73.39%で、7割以上の履修者がさらに深く学びたいという回答をしている。また、「意義のあるものであった」という質問に対しては、、有効回答数947名中「大いにそう思う」が409名（43.19%）、「そう思う」が421名（44.46%）となり、両回答の合計が830名、87.65%と、9割近い履修者が意義のある授業であったと回答している。 また、「情報・メディアと社会」に対するアンケートでは，「この授業受け,さらに深く勉強したくなった」という質問に対しては、有効回答数9名中「大いにそう思う」が2名（22.22%）、「そう思う」が6名（66.67%）となり、両回答の合計が8名、88.89%で、約9割の履修者がさらに深く学びたいという回答をしている。また、「意義のあるものであった」という質問に対しては、、有効回答数9名中「大いにそう思う」が3名（33.33%）、「そう思う」が4名（44.44%）となり、両回答の合計が7名、77.78%と、8割近い履修者が意義のある授業であったと回答している。 これらのことから，数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させることができていると推察される。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	授業アンケートの質問に「教科書やプリント等の教材が適切に使用されていた」という項目があり、「コンピュータ・リテラシー」では、有効回答数947名中「大いにそう思う」が379名（40.02%）、「そう思う」が398名（42.03%）で、両回答の合計が777名、82.05%の履修者が教材が適切に使用されていると回答している。しかしながら、「受講生が自ら考えるような機会がみられた」という質問に対しては、有効回答数9名中「大いにそう思う」が1名（11.11%）、「そう思う」が3名（33.33%）、両回答の合計が4名、44.44%で、こちらの科目においても他の質問項目と比べると肯定的な回答が低い結果であった。 また、「情報・メディアと社会」に対するアンケートでは，「教科書やプリント等の教材が適切に使用されていた」という項目では、有効回答数9名中「大いにそう思う」が3名（33.33%）、「そう思う」が4名（44.44%）で、両回答の合計が7名、77.78%の履修者が教材が適切に使用されていると回答している。しかしながら、「受講生が自ら考えるような機会がみられた」という質問に対しては、有効回答数947名中「大いにそう思う」が289名（30.52%）、「そう思う」が361名（38.12%）、両回答の合計が650名、68.64%で、他の質問項目と比べると肯定的な回答が低い結果であった。このことから、教材の使用に関しては効果的に活用がなされているものの、今後は主体的に学ぶ学修への改善が必要であると考え、充実を図りたい。

コンピュータ・リテラシー Ｈ１

授業科目	コンピュータ・リテラシー						
開講年度	2024年度	開講学期	春学期	曜日・講時	月曜1限	単位	2単位
担当者	上出　浩（ｳｴﾃﾞ ﾋﾛｼ）						

■ 授業のテーマ	情報基盤社会に必須である情報リテラシーの習得

■ 授業の概要	AIがより身近になりつつある現在、Society5.0やそれを超える社会の変化が訪れようとしている。情報ツールへの依存は増すばかりである。この変化に取り残されないためにも、情報リテラシーを始めとした情報ツールの基礎的な理解と利用方法、ルールの習得は欠かせない。この講義ではOSやバージョンに囚われることなく、日常的な学習にも必要な、情報検索、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどが行えるよう、PCとその周辺についての基本的知識と操作の修得を、目指す。

■ 授業の目的・ねらい	大学で学習を効果的に進める上で、また就職後の知識基盤社会、Society5.0で必須となる情報リテラシーを習得し、基礎的な情報処理能力と応用力を身に付ける。

■ 毎回の授業のテーマ・内容		（担当者）
第１回	オリエンテーション、Society5.0、情報ツールの基礎知識（第II章） 情報と情報ツール、基本知識、OSとアプリ、基本操作、AI、Society5.0、など	
第２回	パソコンの操作の基本（マウスやキーボードのキーの役割と使い方）（第III章） 基本操作、ショートカット・キー、組み合わせなど	
第３回	情報収集の基礎（第I章）、セキュリティと権利（第IX章） ＜課題１：情報検索と入力＞ 情報の検索、保存、剽窃、マナーとルール、著作権、プライバシー、名誉毀損など	
第４回	ドキュメント作成の基本１（文字入力・変換・保存、ページ設定、辞書機能等の利用、文章の校正・整形等など）（第IV章） 文字と段落、各種装飾、箇条書きと段落番号、文書公正など	
第５回	ドキュメント作成の基本２（表・画像・オブジェクトの挿入・加工など、PDF）（第Ｖ章） ＜課題２：ドキュメント作成＞ オブジェクト、グループ化、文字の折返し、レイアウト、保存、PDFの作成など	
第６回	表計算の基本１（文字と数値の違い、オートフィルの意味と機能など）（第VI章） 数値と文字、セルと位置関係、オートフィル、オートフィルと位置関係など	
第７回	表計算の基本２（基本的な計算、絶対参照など）（第VI章） 表作成、四則演算、オートフィル、合計（オートSum）、割合と絶対参照など	
第８回	表計算の基本３（関数基礎（合計・平均・最大・最小・順位））（第VI章） Sum、Average、Max、Min、Rank.eqと絶対参照など	
第９回	表計算の基本４（複合参照、表示形式、表の飾り）（第VI章） 複合参照、九九の計算、割合・順位と複合参照、表示形式、罫線など	
第１０回	表計算の基本５（グラフ化の意義、グラフ作成と編集など）（第VII章） ＜課題３：表計算とグラフ＞ 縦棒グラフ、円グラフなど	
第１１回	表計算と分析（基本の確認、データ収集、if関数、簡単なデータベースの利用）（第Ｘ章） データ収集と加工、if、並び替え、オートフィルターなど	
第１２回	表計算と分析（データの視覚化、相関など） ヒストグラム、箱ひげ図、散布図、相関、近似など	
第１３回	プレゼンテーション作成の基本（プレゼンの意義、スライド作成の基本）（第VIII章） プレゼンテーションの意義、スライド作成、アニメーションの設定、リンク・オブジェクトの利用、スライドショーなど	
第１４回	情報ツール総合活用への基礎１（各アプリ・機能連携、応用的な利用）（第Ｘ章から第XII章） アプリの特性とＯＬＥ、形式を選択して貼り付け	
第１５回	情報ツール総合活用への基礎２（総合演習） ＜課題４：データ分析とプレゼン＞	

■ 到達目標	１．本学の情報環境を把握し、情報機器が利用できるようになる。 ２．PCを用いて文献等の検索、文書作成、プレゼンテーション資料の作成、表計算、図表作成ができ、それらのソフトを組み合わせて活用することにより、大学授業での課題作成や論文作成に応用できるようになる。 ３．PC利用における基本的な情報モラルおよびセキュリティ対策を実践できるようになる。 ４．Society5.0で実現される社会について説明できるようになる。

■ 授業時間外の学修（予習・復習等）についての具体的な指示	講義前にテキストの該当箇所を読み、できれば操作も行いながら予習を行い講義に望み、講義ではより深い理解を目指すこと。PC（パソコン）の操作に不慣れな場合、十分な学習効果が望めなくなるため、予め十分に操作練習をしておくこと。特にキーボードからの文章入力には慣れておくこと。

■ 受講にあたっての留意事項	本講義は大学共通科目であり2単位の科目である。知識・実習を積み上げて学習していく科目である。どの回の授業も欠席するとその技能が理解できないだけでなく、その後の学習に大きな支障になるため、欠席・遅刻しないこと。なお、受講生の習熟度により、進度、内容、課題を調整す

	る。 授業時間内は、教室設置のパソコンを用いるが、授業時間外の学習（課題など）は自分のパソコンで行うことができる。

■ 成績評価の基準	割合（%）	備考
・定期試験（教室）		
・定期試験（課題）		
・授業内発表	10	授業内で教員からの発問に対する積極的・建設的な発言・発表を評価する。
・授業内試験		
・授業内課題	90	本講義は知識を深め、PCを操作して行う演習講義であるため、出席しなければ学習の意味がない。授業の中で複数回の課題を課すが、１つでも課題が未提出の場合は評価対象外とする場合もあるので注意すること。さらには受講態度が悪い場合（PC操作をしない等）も大きく減点する。
・その他		

■ テキストについて	備考	
書名 （ISBN）	著者	出版社
大学生のための情報リテラシー	（監修）篠原正典、（著者）上出浩、破田野智己、角田あさな	ミネルヴァ書房

■ 参考文献について	備考	
書名 （ISBN）	著者	出版社

情報・メディアと社会 H

授業科目	情報・メディアと社会						
開講年度	2024年度	開講学期	春学期	曜日・講時	集中講義	単位	2単位
担当者	吉見　憲二（ﾖｼﾐ ｹﾝｼﾞ）						

■ 授業のテーマ	データサイエンスに関する基礎知識を身につける。

■ 授業の概要	情報の量や質、さらにそれらの情報を伝達するメディアの種類や様式は、社会の変化とともに大きく変容してきた。社会の変化とともに情報・メディアが変化すると同時に、情報・メディアの変容が社会のあり方を変えてきた。 本講義では、活字から音声、映像へと至るコミュニケーションメディアの変遷を概観したうえで、インターネット時代である現代の情報・メディア環境の特質や問題点をとりあげる。また、メディアと世論形成、ジャーナリズムのあり方等の問題について考えることを通して、メディア・リテラシーの涵養をはかりたい。

■ 授業の目的・ねらい	データサイエンスに関する入門書を体系的に学ぶことにより、数理・データサイエンス・AIに関する基礎知識を身につけることが本授業の目的である。なお、以下の「毎回の授業のテーマ・内容」の担当者欄にテキストの該当する箇所を明示している。

■ 毎回の授業のテーマ・内容		（担当者）
第１回	イントロダクション：シラバスの内容確認、講義の概要説明	
第２回	社会で起きている変化① ビッグデータ、第４次産業革命	1-1
第３回	社会で起きている変化② AI	1-1
第４回	社会で活用されているデータ 構造化データと非構造化データ	1-2
第５回	データとAIの活用領域① 事業活動におけるデータ・AI活用の広がり	1-3
第６回	データとAIの活用領域② 活用目的ごとのデータ・AI活用の広がり	1-3
第７回	データ・AI利活用のための技術① さまざまなデータ解析	1-4
第８回	データ・AI利活用のための技術② 非構造化データ処理	1-4
第９回	データ・AI利活用のための技術③ 人工知能	1-4
第１０回	データ・AI活用の現場 意思決定、自動化	1-5
第１１回	データ・AI利活用の最新動向 ビジネスモデル、技術の活用例	1-6
第１２回	データ・AIを扱う上での留意事項① ELSI、GDPR	3-1
第１３回	データ・AIを扱う上での留意事項② AI倫理	3-1
第１４回	データを守る上での留意事項 情報セキュリティ、プライバシー	3-2
第１５回	まとめ：全体の振り返り	

■ 到達目標	①数理・データサイエンス・AIに関する基本用語について理解し、適切に利用できる。 ②データ・AI利活用の実例を理解し、利点や課題を説明できる。 ③データ・AI利活用に関連した法令や制度を理解し、利点や課題を説明できる。

■ 授業時間外の学修（予習・復習等）についての具体的な指示	毎回の授業に対して、予習・復習扱いとしてGoogle Classroomから小テストに取り組む。

■ 受講にあたっての留意事項	・この授業の教育コンテンツは、原則として【授業がある週の金曜日午前９時】に配信する。小テストの受講期限は翌週火曜日の午後5時となるため、計画的な履修が求められる。 ・期末試験は定期試験期間に教室での実施を予定している。ただし、受講者数や状況等に応じて変更する可能性があるため、授業期間中に確定した情報を改めて伝える。 ・受講者からの要望等を踏まえて、シラバスの内容を変更する可能性がある。

■ 成績評価の基準	割合（%）	備考

・定期試験（教室）	70	授業内容の理解度を確かめる試験を実施する。
・定期試験（課題）		
・授業内発表		
・授業内試験		
・授業内課題	30	テキストの内容に関する小テストを予習復習扱いで実施する。
・その他		

■ テキストについて	備考	
書名 （ISBN）	著者	出版社
教養としてのデータサイエンス （978-4-06-523809-7）	北川 源四郎、 竹村 彰通 (編)	講談社

■ 参考文献について	備考	
書名 （ISBN）	著者	出版社
応用基礎としてのデータサイエンス （978-4-06-530789-2）	北川 源四郎、 竹村 彰通 (編)	講談社

STUDY GUIDE

2024

佛教大学

在学中保存

全学共通科目・全学教養科目　履修科目表

対象学部　仏教学部　文学部　歴史学部　教育学部　社会学部　社会福祉学部

※各学科の専門科目の「卒業所要単位と要件」を併せて確認すること。

全学共通科目・全学教養科目　履修科目表（1/2）

系列区分				授業科目の名称	単位数	必修／選択 必修	必修／選択 選択	履修開始セメスター	GPA対象	卒業所要単位 小計	卒業所要単位 中計	卒業所要単位 大計
全学共通科目	仏教			ブッダと法然	2	必		1		2単位	2単位	小計・中計を満たし30単位 ※卒業所要単位には30単位までしか算入できません
全学共通科目	自校教育			佛教大学の理念と歴史	2		選	1		0単位以上	0単位以上	
全学共通科目	外国語	必修外国語	英語	Intensive Reading1	1		選	1		1語種から8単位	小計を満たし8単位以上	
				Intensive Reading2	1		選	2				
				Integrated Communication Skills1	1		選	1				
				Integrated Communication Skills2	1		選	1				
				Integrated Communication Skills3	1		選	2				
				Integrated Communication Skills4	1		選	2				
				Intermediate Reading1	1		選	3				
				Intermediate Reading2	1		選	4				
			中国語	中国語1	1		選	1				
				中国語2	1		選	1				
				中国語3	1		選	1				
				中国語4	1		選	2				
				中国語5	1		選	2				
				中国語6	1		選	2				
				中国語7	1		選	3				
				中国語8	1		選	4				
			朝鮮語	朝鮮語1	1		選	1				
				朝鮮語2	1		選	1				
				朝鮮語3	1		選	1				
				朝鮮語4	1		選	2				
				朝鮮語5	1		選	2				
				朝鮮語6	1		選	2				
				朝鮮語7	1		選	3				
				朝鮮語8	1		選	4				
			日本語	日本語1	1		選	1				
				日本語2	1		選	1				
				日本語3	1		選	1				
				日本語4	1		選	2				
				日本語5	1		選	2				
				日本語6	1		選	2				
				日本語7	1		選	3				
				日本語8	1		選	4				
		選択外国語	英語	General English1	1		選	1		※0単位以上		
				General English2	1		選	1				
				Communication Seminar1	2		選	1				
				Communication Seminar2	2		選	1				
				English Lecture1	2		選	1				
				English Lecture2	2		選	1				
				初級英語会話1	1		選	1				
				初級英語会話2	1		選	1				
				Skill-building（TOEIC500）1	1		選	1				
				Skill-building（TOEIC500）2	1		選	1				
				Skill-building（TOEIC600）1	1		選	1				
				Skill-building（TOEIC600）2	1		選	1				
				Intensive Overseas Program（短期海外語学研修認定用）	2		選	1	×			
			中国語	初級中国語1	1		選	1				
				初級中国語2	1		選	1				
				中級中国語1	1		選	1				
				中級中国語2	1		選	1				
				中国語表現法（短期海外語学研修認定用）	2		選	1	×			
			朝鮮語	初級朝鮮語1	1		選	1				
				初級朝鮮語2	1		選	1				
				中級朝鮮語1	1		選	1				
				中級朝鮮語2	1		選	1				
				朝鮮語表現法（短期海外語学研修認定用）	2		選	1	×			
			ドイツ語	初級ドイツ語1	1		選	1				
				初級ドイツ語2	1		選	1				
				中級ドイツ語1	1		選	1				
				中級ドイツ語2	1		選	1				
			フランス語	初級フランス語1	1		選	1				
				初級フランス語2	1		選	1				
				中級フランス語1	1		選	1				
				中級フランス語2	1		選	1				
			ベトナム語	初級ベトナム語1	1		選	1				
				初級ベトナム語2	1		選	1				
				中級ベトナム語1	1		選	1				
				中級ベトナム語2	1		選	1				
				ベトナム語表現法（短期海外語学研修認定用）	2		選	1	×			

※文学部および歴史学部は「必修外国語」とは別の1語種を選択し、選択した語種のうちそれぞれ以下のとおり履修すること。
「英語」選択者は「General English1・2」の2科目2単位を履修すること。
「中国語」選択者は「初級中国語1・2」の2科目2単位を履修すること。
「朝鮮語」選択者は「初級朝鮮語1・2」の2科目2単位を履修すること。
「ドイツ語」選択者は「初級ドイツ語1・2」の2科目2単位を履修すること。
「フランス語」選択者は「初級フランス語1・2」の2科目2単位を履修すること。
「ベトナム語」選択者は「初級ベトナム語1・2」の2科目2単位を履修すること。

対象学部　仏教学部　文学部　歴史学部　教育学部　社会学部　社会福祉学部

全学共通科目・全学教養科目　履修科目表（2/2）

系列区分			授業科目の名称	単位数	必修／選択 必修	必修／選択 選択	履修開始セメスター	GPA対象	卒業所要単位 小計	卒業所要単位 中計	卒業所要単位 大計
全学共通科目	日本語表現		専門学修のための日本語表現	2	必		1		2単位	2単位	小計・中計を満たし30単位 ※卒業所要単位には30単位までしか算入できません
全学共通科目	情報処理	必修情報処理	コンピュータ・リテラシー	2	必		1		2単位	小計を満たし2単位以上	
全学共通科目	情報処理	選択情報処理	表計算と統計	2		選	1		0単位以上		
全学共通科目	情報処理	選択情報処理	インターネット・プログラミング	2		選	1				
全学共通科目	情報処理	選択情報処理	マルチメディアプレゼンテーション	2		選	1				
全学共通科目	キャリア		キャリア形成	2		選	1		0単位以上	0単位以上	
全学共通科目	キャリア		組織マネジメント論	2		選	1				
全学共通科目	キャリア		表現技法とプレゼンテーション	2		選	3				
全学共通科目	キャリア		リーダーシップ論	2		選	3				
全学共通科目	キャリア		情報収集と問題解決	2		選	2				
全学共通科目	キャリア		インターンシップ	2		選	3				
全学共通科目	キャリア		地域活動1	1		選	3				
全学共通科目	キャリア		地域活動2	1		選	3				
全学共通科目	スポーツ		スポーツ理論	1		選	1		0単位以上	0単位以上	
全学共通科目	スポーツ		スポーツ実技	1		選	1				
全学共通科目	日本事情		日本事情	2		選	1		0単位以上	0単位以上	
全学共通科目	海外研修		短期海外語学研修（英語）1	2		選	1	×	0単位以上	0単位以上	
全学共通科目	海外研修		短期海外語学研修（英語）2	2		選	1	×			
全学共通科目	海外研修		短期海外語学研修（英語）3	2		選	1	×			
全学共通科目	海外研修		短期海外語学研修（英語）4	2		選	1	×			
全学共通科目	海外研修		短期海外語学研修（中国語）1	2		選	1	×			
全学共通科目	海外研修		短期海外語学研修（中国語）2	2		選	1	×			
全学共通科目	海外研修		短期海外語学研修（中国語）3	2		選	1	×			
全学共通科目	海外研修		短期海外語学研修（中国語）4	2		選	1	×			
全学共通科目	海外研修		短期海外語学研修（朝鮮語）1	2		選	1	×			
全学共通科目	海外研修		短期海外語学研修（朝鮮語）2	2		選	1	×			
全学共通科目	海外研修		短期海外語学研修（朝鮮語）3	2		選	1	×			
全学共通科目	海外研修		短期海外語学研修（朝鮮語）4	2		選	1	×			
全学共通科目	海外研修		短期海外語学研修（ベトナム語）1	2		選	1	×			
全学共通科目	海外研修		短期海外語学研修（ベトナム語）2	2		選	1	×			
全学共通科目	海外研修		短期海外語学研修（ベトナム語）3	2		選	1	×			
全学共通科目	海外研修		短期海外語学研修（ベトナム語）4	2		選	1	×			
全学共通科目	大学コンソーシアム		大学コンソーシアム	2		選	1	×	0単位以上	0単位以上	
全学教養科目	基礎領域	人間を考える	くらしの中の仏教	2		選	1		4単位以上	小計を満たし8単位以上	
全学教養科目	基礎領域	人間を考える	ことばと文学	2		選	1				
全学教養科目	基礎領域	人間を考える	心の世界を考える	2		選	1				
全学教養科目	基礎領域	人間を考える	人間の仕組みと活動	2		選	1				
全学教養科目	基礎領域	人間の歩み	前近代の世界	2		選	1				
全学教養科目	基礎領域	人間の歩み	近現代の世界	2		選	1				
全学教養科目	基礎領域	人間の歩み	宗教と人間の歩み	2		選	1				
全学教養科目	基礎領域	人間の歩み	病と人間の歩み	2		選	1				
全学教養科目	基礎領域	人間と社会	日本国憲法	2		選	1				
全学教養科目	基礎領域	人間と社会	法律を知る	2		選	1				
全学教養科目	基礎領域	人間と社会	世界と日本の政治	2		選	1				
全学教養科目	基礎領域	人間と社会	くらしの中の経済	2		選	1				
全学教養科目	基礎領域	人間と社会	個人・集団・社会	2		選	1				
全学教養科目	基礎領域	人間と自然	数の世界	2		選	1				
全学教養科目	基礎領域	人間と自然	物質の世界	2		選	1				
全学教養科目	基礎領域	人間と自然	宇宙を考える	2		選	1				
全学教養科目	基礎領域	人間と自然	生物の世界	2		選	1				
全学教養科目	基礎領域	人間と自然	自然と地理	2		選	1				
全学教養科目	基礎領域	人間と自然	食と栄養	2		選	1				
全学教養科目	応用領域	人間を考える	仏教の人間観と死生観	2		選	5		4単位以上		
全学教養科目	応用領域	人間を考える	人間と思想	2		選	5				
全学教養科目	応用領域	人間の歩み	人種・民族・国家	2		選	5				
全学教養科目	応用領域	人間の歩み	世界の文化	2		選	5				
全学教養科目	応用領域	人間の歩み	人間と経済活動	2		選	5				
全学教養科目	応用領域	人間と社会	世界のニュースと日本	2		選	5				
全学教養科目	応用領域	人間と社会	Global English Communication	2		選	5				
全学教養科目	応用領域	人間と社会	現代社会と福祉	2		選	5				
全学教養科目	応用領域	人間と社会	情報・メディアと社会	2		選	5				
全学教養科目	応用領域	人間と社会	教育事情を知る	2		選	5				
全学教養科目	応用領域	人間と自然	生命を考える	2		選	5				
全学教養科目	応用領域	人間と自然	エコロジーを学ぶ	2		選	5				

全学共通科目・全学教養科目　履修科目表

対象学科　理学療法学科　作業療法学科　看護学科

※各学科の専門科目の「卒業所要単位と要件」を併せて確認すること。

全学共通科目・全学教養科目　履修科目表（1/2）

系列区分				授業科目の名称	単位数	必修／選択 必修	必修／選択 選択	履修開始セメスター	GPA対象	卒業所要単位 小計	卒業所要単位 中計	卒業所要単位 大計
全学共通科目	仏教			ブッダと法然	2	必		1		2単位	2単位	小計・中計を満たし20単位 ※卒業所要単位には20単位までしか算入できません
全学共通科目	自校教育			佛教大学の理念と歴史	2		選	1		0単位以上	0単位以上	
全学共通科目	外国語	必修外国語	英語	Intensive Reading1	1		選	1		1語種から8単位	小計を満たし8単位以上	
				Intensive Reading2	1		選	2				
				Integrated Communication Skills1	1		選	1				
				Integrated Communication Skills2	1		選	1				
				Integrated Communication Skills3	1		選	2				
				Integrated Communication Skills4	1		選	2				
				Intermediate Reading1	1		選	3				
				Intermediate Reading2	1		選	4				
			中国語	中国語1	1		選	1				
				中国語2	1		選	1				
				中国語3	1		選	1				
				中国語4	1		選	2				
				中国語5	1		選	2				
				中国語6	1		選	2				
				中国語7	1		選	3				
				中国語8	1		選	4				
			朝鮮語	朝鮮語1	1		選	1				
				朝鮮語2	1		選	1				
				朝鮮語3	1		選	1				
				朝鮮語4	1		選	2				
				朝鮮語5	1		選	2				
				朝鮮語6	1		選	2				
				朝鮮語7	1		選	3				
				朝鮮語8	1		選	4				
			日本語	日本語1	1		選	1				
				日本語2	1		選	1				
				日本語3	1		選	1				
				日本語4	1		選	2				
				日本語5	1		選	2				
				日本語6	1		選	2				
				日本語7	1		選	3				
				日本語8	1		選	4				
		選択外国語	英語	General English1	1		選	1		0単位以上		
				General English2	1		選	1				
				Communication Seminar1	2		選	1				
				Communication Seminar2	2		選	1				
				English Lecture1	2		選	1				
				English Lecture2	2		選	1				
				初級英語会話1	1		選	1				
				初級英語会話2	1		選	1				
				Skill-building（TOEIC500）1	1		選	1				
				Skill-building（TOEIC500）2	1		選	1				
				Skill-building（TOEIC600）1	1		選	1				
				Skill-building（TOEIC600）2	1		選	1				
				Intensive Overseas Program（短期海外語学研修認定用）	2		選	1	×			
			中国語	初級中国語1	1		選	1				
				初級中国語2	1		選	1				
				中級中国語1	1		選	1				
				中級中国語2	1		選	1				
				中国語表現法（短期海外語学研修認定用）	2		選	1	×			
			朝鮮語	初級朝鮮語1	1		選	1				
				初級朝鮮語2	1		選	1				
				中級朝鮮語1	1		選	1				
				中級朝鮮語2	1		選	1				
				朝鮮語表現法（短期海外語学研修認定用）	2		選	1	×			
			ドイツ語	初級ドイツ語1	1		選	1				
				初級ドイツ語2	1		選	1				
				中級ドイツ語1	1		選	1				
				中級ドイツ語2	1		選	1				
			フランス語	初級フランス語1	1		選	1				
				初級フランス語2	1		選	1				
				中級フランス語1	1		選	1				
				中級フランス語2	1		選	1				
			ベトナム語	初級ベトナム語1	1		選	1				
				初級ベトナム語2	1		選	1				
				中級ベトナム語1	1		選	1				
				中級ベトナム語2	1		選	1				
				ベトナム語表現法（短期海外語学研修認定用）	2		選	1	×			

対象学科　理学療法学科　作業療法学科　看護学科

全学共通科目・全学教養科目　履修科目表（2/2）

系列区分			授業科目の名称	単位数	必修／選択 必修	必修／選択 選択	履修開始セメスター	GPA対象	卒業所要単位 小計	卒業所要単位 中計	卒業所要単位 大計
全学共通科目	日本語表現		専門学修のための日本語表現	2	必		1		2単位	2単位	小計・中計を満たし20単位 ※卒業所要単位には20単位までしか算入できません
	情報処理	情報処理	コンピュータ・リテラシー	2		選	1		0単位以上	0単位以上	
			表計算と統計	2		選	1				
			インターネット・プログラミング	2		選	1				
			マルチメディアプレゼンテーション	2		選	1				
		キャリア	キャリア形成	2		選	1		0単位以上	0単位以上	
			組織マネジメント論	2		選	1				
			表現技法とプレゼンテーション	2		選	3				
			リーダーシップ論	2		選	3				
			情報収集と問題解決	2		選	2				
			インターンシップ	2		選	3				
			地域活動1	1		選	3				
			地域活動2	1		選	3				
	スポーツ		スポーツ理論	1		選	1		0単位以上	0単位以上	
			スポーツ実技	1		選	1				
	日本事情		日本事情	2		選	1		0単位以上	0単位以上	
	海外研修		短期海外語学研修（英語）1	2		選	1	×	0単位以上	0単位以上	
			短期海外語学研修（英語）2	2		選	1	×			
			短期海外語学研修（英語）3	2		選	1	×			
			短期海外語学研修（英語）4	2		選	1	×			
			短期海外語学研修（中国語）1	2		選	1	×			
			短期海外語学研修（中国語）2	2		選	1	×			
			短期海外語学研修（中国語）3	2		選	1	×			
			短期海外語学研修（中国語）4	2		選	1	×			
			短期海外語学研修（朝鮮語）1	2		選	1	×			
			短期海外語学研修（朝鮮語）2	2		選	1	×			
			短期海外語学研修（朝鮮語）3	2		選	1	×			
			短期海外語学研修（朝鮮語）4	2		選	1	×			
			短期海外語学研修（ベトナム語）1	2		選	1	×			
			短期海外語学研修（ベトナム語）2	2		選	1	×			
			短期海外語学研修（ベトナム語）3	2		選	1	×			
			短期海外語学研修（ベトナム語）4	2		選	1	×			
	大学コンソーシアム		大学コンソーシアム	2		選	1	×	0単位以上	0単位以上	
全学教養科目	基礎領域	人間を考える	くらしの中の仏教	2		選	1		4単位以上	小計を満たし4単位以上	
			ことばと文学	2		選	1				
			心の世界を考える	2		選	1				
			人間の仕組みと活動	2		選	1				
		人間の歩み	前近代の世界	2		選	1				
			近現代の世界	2		選	1				
			宗教と人間の歩み	2		選	1				
			病と人間の歩み	2		選	1				
		人間と社会	日本国憲法	2		選	1				
			法律を知る	2		選	1				
			世界と日本の政治	2		選	1				
			くらしの中の経済	2		選	1				
			個人・集団・社会	2		選	1				
		人間と自然	数の世界	2		選	1				
			物質の世界	2		選	1				
			宇宙を考える	2		選	1				
			生物の世界	2		選	1				
			自然と地理	2		選	1				
			食と栄養	2		選	1				
	応用領域	人間を考える	仏教の人間観と死生観	2		選	5		0単位以上		
			人間と思想	2		選	5				
		人間の歩み	人種・民族・国家	2		選	5				
			世界の文化	2		選	5				
			人間と経済活動	2		選	5				
		人間と社会	世界のニュースと日本	2		選	5				
			Global English Communication	2		選	5				
			現代社会と福祉	2		選	5				
			情報・メディアと社会	2		選	5				
			教育事情を知る	2		選	5				
		人間と自然	生命を考える	2		選	5				
			エコロジーを学ぶ	2		選	5				

○教育推進機構会議規程

第１条　本規程は，教育推進機構規程第５条に基き，教育推進機構会議（以下「機構会議」という。）の構成および運営について必要な事項を定める。

第２条　機構会議は，教育推進機構長，学生支援機構長，各学部教育推進担当主任，学生支援部長，生涯学習部長，管財部長および所管部長をもって構成する。

２　機構会議は，必要に応じて前項に掲げる構成員以外の者を出席させ，報告および説明または意見を求めることができる。

３　機構会議は，特定の事項を審議するために必要に応じて作業部会等を置くことができる。

４　機構会議は，教育推進部長の所管とする。

第３条　機構会議に，議長と副議長を置く。

２　議長は教育推進機構長が，副議長は機構会議構成員の互選によって選出する。

３　機構会議に関する事務取扱は，教育推進部教育推進課長がこれにあたり，審議事項等にかかわる資料作成および議事録等，機構会議に関する事務を処理する。

第４条　機構会議は，議長が招集し，会務を統轄する。

２　機構会議は，構成員の３分の２以上の出席がなければ開催することができない。

第５条　機構会議は，次の事項を審議し，その議案に応じて各学部教授会，各研究科教授会，部局長会または大学評議会に提出する。

(1)　教育課程の編成・運営に関する事項

ア　次年度のカリキュラム運営（開講科目・担当者案，時間割編成，免許・資格制度のカリキュラム・担当者など）に関する事項

イ　授業運営（補講および集中講義を含む）および試験に関する事項

ウ　単位互換協定に関する事項

エ　キャリア教育に関する事項

オ　自校教育に関する事項

カ　授業カレンダー，学年暦に関する事項

キ　その他教育課程の編成に関する事項

(2)　教育開発・改善に関する事項

ア　教育システムの企画・立案および推進に関する事項

イ　教育課程の開発に関する事項

ウ　FDおよび授業改善活動（授業評価，授業改善活動の推進，研究会の企画・実施，

FDに関する研修会，シラバス改定，初年次教育，キャリア教育，カリキュラムの調査研究など）に関する事項

エ　学生の学力調査に関する事項

オ　教材，メディア教材の企画・開発に関する事項

カ　その他教育開発・改善に関する事項

(3)　国際交流センターに関する事項

(4)　教育推進機構の人事（契約講師，専門員等）に関する事項

(5)　教育推進機構の事業計画および予算編成に関する事項

(6)　教育推進機構の自己点検・評価に関する事項

(7)　教育推進機構に関連する諸規程の改廃に関する事項

(8)　その他教育推進機構に関する必要な事項

２　機構会議は，各学部教授会，各研究科教授会，部局長会または大学評議会の求めがあれば，機構会議における審議経過を報告しなければならない。

第６条　機構会議の議決は，出席者の過半数の賛成を必要とし，可否同数の場合は，議長の決するところによる。

第７条　本規程の改廃は，教育推進機構会議，各学部教授会の議を経て，大学評議会の承認を得なければならない。

附　則

第１条　本規程は，平成24年４月１日から施行する。

第２条　本規程の施行に伴い，「教務委員会規程」（昭和42年４月１日施行），「共通科目編成・運営委員会規程」（平成５年４月１日施行），「教育開発委員会規程」（平成19年４月１日施行），「メディア教材開発・知的財産管理委員会規程」（平成19年４月１日施行），「キャリア委員会規程」（平成16年４月１日施行），「国際交流センター委員会規程」（平成21年４月１日施行），「宗教教育センター委員会規程」（平成19年４月１日施行），「自校教育部門事業等に関する内規」（平成19年４月１日施行），「通信教育委員会規程」（平成９年４月１日施行）は，廃止する。

第３条　本規程は，平成29年４月１日から改正施行する。

第４条　本規程は，平成30年４月１日から改正施行する。

第５条　本規程は，令和４年４月１日から改正施行する。

○全学共通科目・教養科目編成運営委員会規程

第１条　本規程は，全学共通科目・教養科目編成運営委員会（以下「委員会」という。）の構成および運営について必要な事項を定める。

第２条　委員会は，教育推進機構会議および生涯学習機構会議のもとに置き，全学的に編成される全学共通科目・教養科目，共通教育科目の開設の趣旨に基き，編成および運営を審議する。

第３条　委員会は，教育推進機構長，生涯学習機構長，教育推進機構長が指名する共通科目コーディネータ，教育推進機構長が指名する各学部の教員各１名，生涯学習部長，教育推進課長，通信教務課長，通信学習課長，教育推進部長および学務課長をもって構成する。

２　委員会は，必要に応じて前項に掲げる構成員以外の者を出席させ，報告および説明または意見を求めることができる。

３　委員会は，教育推進部の所管とする。

４　任期は１年とし，再任を妨げない。

第４条　委員会に，委員長と副委員長を置く。

２　委員長は，教育推進機構長とし，副委員長は生涯学習機構長とする。

３　委員会に関する事務取扱は，学務課がこれにあたり，資料作成および議事録等，委員会に関する事務を処理する。

第５条　委員会は，委員長が招集し，会務を統轄する。

２　委員会は，構成員の３分の２以上の出席がなければ開催することができない。

第６条　委員会は，次の事項を審議し，議案の内容に応じて教育推進機構会議および生涯学習機構会議に提出する。

(1)　佛教大学学則第５条に定める全学共通科目，佛教大学通信教育規程第13条に定める共通教育科目の編成および運営に関する事項。

(2)　その他，全学共通科目・教養科目，共通教育科目全般に関する事項。

２　委員会は，関連する審議機関からの求めがあれば，委員会における審議経過を報告しなければならない。

第７条　委員会の議決は，出席者の過半数の賛成を必要とし，可否同数の場合は，委員長の決するところによる。

第８条　本規程の改廃は，教育推進機構会議および生涯学習機構会議の議を経て，大学評議会の承認を得なければならない。

附　則

第１条　本規程は，平成30年４月１日から施行する。

第２条　本規程は，令和６年４月１日から改正施行する。

○質保証推進委員会規程

（設置）

第１条　佛教大学学則第１条および佛教大学大学院学則第１条の目的を達成するために，本学の教育研究，組織運営に関する質の保証および改善・向上に向けた取り組みの推進を目的として，質保証推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（任務）

第２条　委員会は，自己点検・評価の結果等に基き，質の保証および改善・向上に関して審議を行ない，大学全体として内部質保証の推進に責任を負う。

（構成）

第３条　委員会は，学長，副学長，学長特別補佐，各学部・研究科長，各機構長，質保証推進室長，事務局長，事務局次長，各部長，広報課長および企画課長をもって構成する。

２　委員会は，学長室の所管とする。

（委員長および副委員長）

第４条　委員会に，委員長と副委員長を置く。

２　委員長は学長とする。

３　副委員長は副学長の中から学長が指名する。

第５条　委員長は，委員会を代表し，会務を統轄する。

２　副委員長は，委員長を補佐し，委員長に事故あるときは，これを代行する。

（委員会の運営）

第６条　委員会は，委員長が招集する。

２　委員会は，構成員の３分の２以上の出席がなければ開催することができない。

３　委員会の議決は，出席者の過半数の賛成を必要とし，可否同数の場合は，議長の決するところによる。

４　委員会は，必要に応じて第３条第１項に掲げる構成員以外の者を出席させ，報告および説明または意見を求めることができる。

（審議事項）

第７条　委員会は，次の事項について審議し，関係する委員会等を通じて，各組織に対して改善・向上に向けた取り組みを指示する。なお，議案の内容により必要に応じて大学評議会の議を経て実施する。

(1)　建学の理念ならびに教育研究上の目的に関すること

(2)　ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーに関すること

(3)　大学の各種情報の統合分析とその対応に関すること

(4)　内部質保証に関すること

ア　方針および手続きに関すること

イ　自己点検・評価の基本事項に関すること

ウ　自己点検・評価結果に基づく改善・向上に関すること

(5)　学校教育法第109条第２項に基く認証評価に関すること

(6)　外部評価に関すること

(7)　学校教育法施行規則第172条第２項を含む教育研究活動および質保証に関する情報等の公開に関すること

(8)　その他，大学の質保証に関すること

２　委員会は，各学部教授会，部局長会および大学評議会等の求めがあれば，委員会における審議経過を報告しなければならない。

（質保証推進室等）

第８条　委員会は,必要に応じて第７条に関する事項の調査分析を質保証推進室に依頼することができる。

（事務）

第９条　委員会に関する事務取扱は，企画課長がこれにあたり，資料作成および議事録等，委員会に関する事務を処理する。

（規程の改廃）

第10条　本規程の改廃は，質保証推進委員会の議を経て，大学評議会の承認を得なければならない。

附　則

第１条　本規程は，平成24年４月１日から施行する。

第２条　本規程は，平成27年４月１日から改正施行する。

第３条　本規程は，平成30年４月１日から改正施行する。

第４条　本規程は，令和４年４月１日から改正施行する。但し，本規程は「質保証検討委員会規程（平成24年４月１日施行）」の表題および条文を改正したものである。

○自己点検評価委員会規程

（設置）

第１条　質保証推進委員会の定める内部質保証の方針に基く自己点検･評価の基本事項を踏まえ，佛教大学学則第１条の３および佛教大学大学院学則第１条の２に基く自己点検・評価を行なうため，自己点検評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（任務）

第２条　委員会は,質保証推進委員会が適切に内部質保証に関する取り組みを推進できるように，本学の教育研究活動および大学運営等の状況について，自己点検・評価の方法を定め，毎年度点検・評価を実施し，定期的にその結果をとりまとめ，質保証推進委員会に提出する。

（構成）

第３条　委員会は，副学長，事務局長，大学評価室長，学長が指名する教育職員若干名，学長が指名する事務職員若干名，学長室長，広報課長および企画課長をもって構成する。

２　委員会の所管は，学長室とする。

（委員長および副委員長）

第４条　委員会に，委員長と副委員長を置く。

２　委員長は，副学長とする。

３　副委員長は，委員長が指名する。

第５条　委員長は，委員会を代表し，会務を統括する。

２　副委員長は，委員長を補佐し，委員長に事故あるときは，これを代行する。

（委員会の運営）

第６条　委員会は，委員長が招集する。

２　委員会は，構成員の３分の２以上の出席がなければ開催することができない。

３　委員会の議決は，出席者の過半数の賛成を必要とし，可否同数の場合は，委員長の決するところによる。

４　委員会は，必要に応じて前項に掲げる構成員以外の者を出席させ，報告および説明または意見を求めることができる。

（審議事項）

第７条　委員会は，第２条に規定する任務を遂行するため，次の事項について審議し，質保証推進委員会に提出する。

(1)　質保証推進委員会の定める内部質保証の方針に基く自己点検・評価の実施に関すること

ア　自己点検・評価実施計画の策定（実施時期・点検項目等）に関する事項

イ　自己点検・評価の実施体制（実施組織）に関する事項

ウ　自己点検・評価の実施方法に関する事項

エ　学校教育法第110条による認証評価機関の認証評価に関する事項

(2)　自己点検・評価の実施運営に関する事項

(3)　自己点検・評価結果のとりまとめに関する事項

(4)　自己点検・評価結果に基く長所および課題に関する事項

(5)　その他，自己点検・評価に関する必要な事項

２　委員会は，各学部教授会および大学評議会の求めがあれば，委員会における審議経過を報告しなければならない。

（部門別自己点検評価委員会）

第８条　委員会は，第２条に規定する任務を効果的に遂行するために，必要に応じて部門別自己点検評価委員会を設置することができる。

２　前項における部門別自己点検評価委員会に関する事項は，前条第１項第１号に基き委員会が別に定める。

（大学評価室等）

第９条　委員会は，必要に応じて第７条に関する事項の企画推進および調査研究等を大学評価室に依頼することができる。

（事務）

第10条　委員会に関する事務取扱は，企画課長がこれにあたり，審議事項等にかかわる資料作成および議事録等，委員会に関する事務を処理する。

（規程の改廃）

第11条　本規程の改廃は，大学評価委員会の議を経て大学評議会の承認を得なければならない。

附　則

第１条　本規程は，平成９年10月15日から施行する。

第２条　本規程は，平成12年４月１日から改正施行する。

第３条　本規程は，平成14年４月１日から改正施行する。

第４条　本規程は，平成15年４月１日から改正施行する。

第５条　本規程は，平成16年４月１日から改正施行する。

第６条　本規程は，平成17年４月１日から改正施行する。

第７条　本規程は，平成19年４月１日から改正施行する。

第８条　本規程は，平成20年４月１日から改正施行する。

第９条　本規程は，平成21年４月１日から改正施行する。

第10条　本規程は，平成23年４月１日から改正施行する。

第11条　本規程は，平成24年４月１日から改正施行する。

第12条　本規程は，平成30年４月１日から改正施行する。

第13条　本規程は，令和４年４月１日から改正施行する。但し，本規程は「大学評価委員会規程（平成９年10月15日施行）」の表題および条文を改正したものである。

○教育推進機構会議規程

第１条　本規程は，教育推進機構規程第５条に基き，教育推進機構会議（以下「機構会議」という。）の構成および運営について必要な事項を定める。

第２条　機構会議は，教育推進機構長，学生支援機構長，各学部教育推進担当主任，学生支援部長，生涯学習部長，管財部長および所管部長をもって構成する。

２　機構会議は，必要に応じて前項に掲げる構成員以外の者を出席させ，報告および説明または意見を求めることができる。

３　機構会議は，特定の事項を審議するために必要に応じて作業部会等を置くことができる。

４　機構会議は，教育推進部長の所管とする。

第３条　機構会議に，議長と副議長を置く。

２　議長は教育推進機構長が，副議長は機構会議構成員の互選によって選出する。

３　機構会議に関する事務取扱は，教育推進部教育推進課長がこれにあたり，審議事項等にかかわる資料作成および議事録等，機構会議に関する事務を処理する。

第４条　機構会議は，議長が招集し，会務を統轄する。

２　機構会議は，構成員の３分の２以上の出席がなければ開催することができない。

第５条　機構会議は，次の事項を審議し，その議案に応じて各学部教授会，各研究科教授会，部局長会または大学評議会に提出する。

(1)　教育課程の編成・運営に関する事項

ア　次年度のカリキュラム運営（開講科目・担当者案，時間割編成，免許・資格制度のカリキュラム・担当者など）に関する事項

イ　授業運営（補講および集中講義を含む）および試験に関する事項

ウ　単位互換協定に関する事項

エ　キャリア教育に関する事項

オ　自校教育に関する事項

カ　授業カレンダー，学年暦に関する事項

キ　その他教育課程の編成に関する事項

(2)　教育開発・改善に関する事項

ア　教育システムの企画・立案および推進に関する事項

イ　教育課程の開発に関する事項

ウ　FDおよび授業改善活動（授業評価，授業改善活動の推進，研究会の企画・実施，

FDに関する研修会，シラバス改定，初年次教育，キャリア教育，カリキュラムの調査研究など）に関する事項

エ　学生の学力調査に関する事項

オ　教材，メディア教材の企画・開発に関する事項

カ　その他教育開発・改善に関する事項

(3)　国際交流センターに関する事項

(4)　教育推進機構の人事（契約講師，専門員等）に関する事項

(5)　教育推進機構の事業計画および予算編成に関する事項

(6)　教育推進機構の自己点検・評価に関する事項

(7)　教育推進機構に関連する諸規程の改廃に関する事項

(8)　その他教育推進機構に関する必要な事項

２　機構会議は，各学部教授会，各研究科教授会，部局長会または大学評議会の求めがあれば，機構会議における審議経過を報告しなければならない。

第６条　機構会議の議決は，出席者の過半数の賛成を必要とし，可否同数の場合は，議長の決するところによる。

第７条　本規程の改廃は，教育推進機構会議，各学部教授会の議を経て，大学評議会の承認を得なければならない。

附　則

第１条　本規程は，平成24年４月１日から施行する。

第２条　本規程の施行に伴い，「教務委員会規程」（昭和42年４月１日施行），「共通科目編成・運営委員会規程」（平成５年４月１日施行），「教育開発委員会規程」（平成19年４月１日施行），「メディア教材開発・知的財産管理委員会規程」（平成19年４月１日施行），「キャリア委員会規程」（平成16年４月１日施行），「国際交流センター委員会規程」（平成21年４月１日施行），「宗教教育センター委員会規程」（平成19年４月１日施行），「自校教育部門事業等に関する内規」（平成19年４月１日施行），「通信教育委員会規程」（平成９年４月１日施行）は，廃止する。

第３条　本規程は，平成29年４月１日から改正施行する。

第４条　本規程は，平成30年４月１日から改正施行する。

第５条　本規程は，令和４年４月１日から改正施行する。

大学等名	**佛教大学**	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和　7　年度

取組概要

プログラムの概要

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」認定制度は、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、適切に理解し、活用する基礎的な能力を育成することや課題を解決するための実践的な能力を育成することを目的として、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定及び選定して奨励するものです。

佛教大学では、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムで策定されたモデルカリキュラムに準拠した「コンピュータ・リテラシー」「情報・メディアと社会」を全学部対象に開講しています。

プログラムにおいて身に付ける能力

- さまざまな情報ツールを適切に利用できる
- インターネットを適切に利用できる
- 基本的な情報モラルおよびセキュリティ対策を実践できる
- Society5.0で実現される社会について説明できる
- 数理・データサイエンス・AIに関する基本用語について理解し、適切に利用できる
- データ・AI利活用の実例を理解し、利点や課題を説明できる
- データ・AI利活用に関連した法令や制度を理解し、利点や課題を説明できる

開設科目と修了要件

①全学共通科目「コンピュータ・リテラシー」

②全学教養科目「情報・メディアと社会」※春学期開講科目

全学共通科目「コンピュータ・リテラシー」および全学教養科目「情報・メディアと社会」の2科目4単位を修得すること。

学習サポート

ICTサポート窓口を設置し、特に新入生がスムーズに授業を開始できるように個別支援も行っています。

実施体制

1. プログラムの運営責任者
   - 教育推進機構長
2. プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）
   - 教育推進機構会議
   - 全学共通科目・教養科目編成運営委員会
3. プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）
   - 質保証推進委員会
   - 自己点検評価委員会
   - 教育推進機構会議